

仏菓子のパッケージ考案

川崎の地域性生かした → 創意あふれる40作品



風鈴の中にギモーヴを入れた「夏奏」

製作過程を観察し、完成品の用途を考えて商品を引き立たせるパッケージを考えた。

川崎市には「ブルミッシュ」社の営業本部と製菓アカデミーがある。菓子職人としても名高い吉田菊次郎社長と上平教授は交流があり、「かわさきコ」プロジェクトとしてコラボが実現。「地域性をもった洋菓子を」との専大側の注文に、同社の菓子職人が、川崎市多摩区のクラフトビール醸造所などの協力を得て制作した。発表会は演習室4室を使い、ブルミッシュ社の幹部、他の美術大の教員、ネットワーク情報学部卒業生も見学を訪れ、学生たちの作品に感想を述べた。

ギフト用フランス菓子を包むパッケージをデザインしよう。ネットワーク情報学部のインタラクティブデザイン基礎演習(指導員上平崇仁教授ら4教員)の発表会が7月18日、生田キャンパスで開かれ、創意あふれる40作品が並んだ。同演習では、2年次生130人がグループワークでデザインの制作課題に取り組む。今回は洋菓子ブランドのブルミッシュ社とのコラボレーション企画。同社がこの演習のために特別に考案したギモーヴ(フランス風マシュマロ)のビール味とブルーベリー味2種を創作。学生たちは、授業で職人の

は風鈴としてそのまま使うことができる。ディスプレイでは、すだれを敷き、朝顔の花をちりばめた。メンバーの長内桃子さんは「風鈴とお菓子を組み合わせると夏らしさを演出した。新しい川崎の姿を作ってみたかった」と語る。ブルミッシュ営業部の塩田次郎部長は「ギフトとしても完成度が非常に高い」と評価した。ほかにも、円筒パッケージの中にギモーヴ付き小型ツリーを入れ、パッケージ内側には川崎の自然豊かな表情を映画フィルムのように印刷した「あの木の実(後藤駿治さんほか)」、「ビールで清め、ブルーベリーのよくなめりある人生を」というなめりある人生を「福渡矢」として「福渡矢」(梅津亮さんほか) ケージ内側には川崎の自然豊かな表情を映画フィルムのように印刷した「あの木の実(後藤駿治さんほか)」、「ビールで清め、ブルーベリーのよくなめりある人生を」というなめりある人生を「福渡矢」として「福渡矢」(梅津亮さんほか) 見学を訪れたプログラマー大橋佑太さん(平20)「ネットワーク情報は「若さにあふれ、柔軟性豊かな作品が多い。こちらが新鮮な気持ちになれた」と笑顔でたたえた。



破魔矢をヒントにした「福渡矢」

ネットワーク情報学部



プロジェクトのメンバー(7月、中間発表会で)

指導の上平教授は「2年次生にとって初めてデザインを学ぶ授業。考え、形にするという一連の作業をやったことで、学生たちは自信がいたのでは。ただ発表会は作品の説明に終始したグループが多かった。だれがどんな体験をし、どう情報として伝えるのかという点に、もっと力を入れて」と注文をつけた。

認知症のひととの共生を探る

ピープルデザインプロジェクト

学生の目線で、認知症の人やその家族が快適に暮らせる社会を創造する「ピープルデザインプロジェクト」(指導・栗芝正臣准教授、佐藤慶



須藤非常勤講師から「イノベーション」について講義を受ける(6月)

一准教授、須藤シンジ非常勤講師、学生21人)の中間発表が7月23日、生田キャンパスであった。自治体や国内外の大学、NPO法人、企業などが連携し、地域で安心・快適に暮らすためのモノやサービスを提案する。2年間にわたる長期プロジェクトで、優秀な提案は来年度実用化される。最初の試案として発表されたのは▽家族の個性や人生を記し介護に役立つ「本」▽認知症の人と介護者が2人で利用できる「トイレ」など7つ。学生は5月から、連携する川崎市と東京都渋谷区の職員らから認知症の人を取り巻く問題について聴講。6月には班に分かれ、川崎市内の施設や介護事業所など5カ所で開催された。6月には班に分かれ、川崎市内の施設や介護事業所など5カ所で開催された。6月には班に分かれ、川崎市内の施設や介護事業所など5カ所で開催された。

努力の成果を披露

プロジェクト中間発表&コウサ展

ネットワーク情報学部3年次の必修科目「プロジェクト」の中間発表会と、学生の活動や制作物を披露する展示会「KOUSA 2017 SUM」



プロジェクトでの取り組みを説明する学生

ネットワーク情報学部の成果を、来場した研究者や同学部を志望する高校生らに伝えた。「プロジェクト」は3年次の必修科目。学生が自ら課題を見つけ、学習



ペットロボットキャップの回収装置を考案

で得たさまざまな知識やスキルを駆使して解決策を提案する。中間発表会では26のプロジェクトが前期の研究の成果を発表した。人型ロボット「ペッパー」に関するアプリを開発しているのは江原淳プロジェクト。会場の入り口では実際にペッパーが退場者と「交流」していた。田中健プロジェクトでは、分かりやすい履修支援サイトの作成に励む。また、上松大輝プロジェクトでは、学内のさまざまな不満を楽しく変えようと、ペットボトルのキャップを回収する装置の開発や、10号館の階

張りとなるものが必要だと思った」とメンバーの吉田幸次郎さんは話す。教員や講師に「クリエイティブでワクワクするの発表会が予定されている。」

※プロジェクトの概要
ピープルデザイン(心のバリアフリーを創造的に実現する方法や思想)を提唱するNPO法人(代表理事は須藤シンジ非常勤講師)、自治体(川崎市、渋谷区)や国内外3大学(慶應義塾大学、青山学院大学、オランダ・デルフト工科大学)、企業などと連携、協力して行う共同研究。オランダでの発表(来年2月)や、自治体や施設で提案を検証する社会実験(来年度)が行われる。